

【はじめに】

1983年2月6日私達の青年会議所は、筑波学園青年会議所として創立されました。それから32年間、脈々と受け継がれてきた創始の精神を守り、先輩諸兄が築き上げてこられた歴史が紡がれ、一般社団法人つくば青年会議所は、現在県内でも有数の活気に満ち溢れた青年会議所として成長することが出来ました。一方、私達の住み暮らすまちは、1963年筑波研究学園都市建設が閣議了解されてから52年目を迎え、1985年国際科学技術博覧会（筑波科学万博）の開催や2005年つくばエクスプレスの開業等、様々な社会的要因を受けて大きな変化を遂げてきました。科学と自然が融合し、国際色豊かなまちへと進化したつくばは、全国的に見ても住みやすいまちとして評価は高まり、各地より注目を集めています。しかし、近年中心部のインフラ整備などハード面の充実が進む中、市内においては農村地帯との地域間格差が現れはじめ、少子化による小学校の廃校等中心部と周辺地域の生活環境の変化が顕著に現れています。また生活環境の進化は、一人ひとりのニーズを多様化させ、人と人とのつながりを希薄化させてしまっていると思うのです。そして、各々の価値観の変化や情報化時代の流れは、他人に対しての無関心や利己主義を助長し、人としての「美」と考えられてきた日本人独特の情溢れる社会を失わせつつあるのではないのでしょうか。本年は2011年発生した東日本大震災から4年目、2012年発生したつくば市を襲った竜巻災害から3年目となります。あの時、日本人としての「思いあう心」と「行動力」は、忘れることのできない人としての美しい姿であったと思うのです。今こそ私達JAYCEEは、もう一度「思いあう心」と「行動力」を活かしながら、先達が有してきた気概や心豊かな精神性を強く持ち、現代を生きる責任世代として英知と勇気と情熱をもって、私達の住み暮らす地域全体が明るく、笑顔溢れる社会へと確立していく必要があるのではないのでしょうか。

【つくばの未来を担うJAYCEEの拡大】

私達はこれまで会員一丸となって会員の拡大に努め、今や有数の会員数を誇るLOMに成長しました。一方で、近年多くのメンバーがJCを卒業し、今改めて私達は未来のJCのために会員の拡大についてともに手を取り合い、真剣に行動していかなければならない時期が来ているのです。JC運動の原動力は、マンパワー以外の何ものでもないのです。「友達をたくさん作りたい」「仕事に繋がりたい」「自分のスキルをもっと高めたい」など、入会の動機は様々な理由があって良いと思います。またそのためにJC活動をして良いと思うのです。組織としてのJCの目的は「明るい豊かな社会の実現」のために活動する団体です。当初の入会動機が様々でも、メンバーはいつしか「愛する家族のために何かしたい」

「地域のために何かしたい」と考えるようになるのです。そんな仲間作りをメンバーとともに進めていきたいのです。さらに本年は、JAYCEEとしての会員資質の向上にも取り組んでまいります。私達は、年間を通して地域に対して非常に多くの事業を行っています。今やこの多くの事業が地域の皆様とともに創り上げる事業へと発展し、その影響力は絶大なものへと変わりつつあります。一方で、入会歴の浅いメンバーが多くなってきている昨今、もう一度JAYCEEとしての足元を見つめ直し、自信をもって地域に対し事業を行える団体であり、個人でなければならないのではないのでしょうか。私達の行動そのものがJCであり、JCの存在自体は私達JAYCEE一人ひとりが創り出す集合体なのです。JAYCEEとしての「美」を確立し、地域においてさらに必要とされる魅力的な団体へと昇華してまいります。

【ともに紡ぐつくばの未来】

私達が住み暮らすつくばは、科学のまち、自然溢れるまち、教育のまち、スポーツのまち、文化・芸術のまち、健康・福祉のまち、地域コミュニティーのまち、環境のまちとしての様々な機能が調和し、景観や利便性を含めた生活基盤が満たされ、非常に住みやすいまちです。この素晴らしい環境を有するつくばは、県内においても無限大の可能性を秘め、地域のブランド力向上において、今後最も中心的な役割を果たしていかなければなりません。そのような中、2020年、1964年以来となる56年ぶりの東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、つくばは成田空港へのアクセスやTXによる東京へのアクセスの利便性、そしてつくば市総合運動公園（仮称）の建設予定から考えても、この開催決定を機に、開催5年前の今こそ広くつくばをプロモーションしていく絶好の機会だと感じています。つくばが有する地の利を活かし、スポーツを通して、「美しいまちつくば」を創造し、地域の人々が笑顔と活気に満ち溢れ、この歩みが次代につながる輝かしい軌跡となる事業を展開してまいります。2015年を天の時と捉え、つくばの地の利、人の和を紡ぎ、地域のブランド力向上につなげ、国際都市として世界に誇れる美しいつくばを創造してまいります。

【地の利を活かしたつくばのまちづくり】

万葉集にも詠われた名峰筑波山という観光資源は、私達が住み暮らすこの地域において、いにしえより愛されてきたつくばの「美」そのものなのです。本年で7回目を迎える「ツール・ド・つくば」は、豊かな自然の恵みに加え、周辺地域の住環境の素晴らしさを広く発信するとともに筑波山周辺地域の活性化を目的に開催してきました。今後もこの事業を通してサイクルスポーツの魅力を市民の皆様さらに周知していくことが必要だと感じています。そして、地域の皆様へ「環境モデル都市つくば」また「自転車のまちつくば」として豊かな自然の恵みを活かしつつ、健康増進や環境保全につながることを広く伝播する大会として開催していきたいのです。また2019年には、茨城県で開催される「第74

回国民体育大会」の自転車ロードレースがこのつくばの地にて開催が決定されました。つくばで自転車競技を始めた先駆けとして、競技開催のノウハウを確固たるものとし、今後地域に還元できるよう大会運営を行ってまいります。そして「ツール・ド・つくば」そのものが全国的に見てスタンダードな大会になるよう飛躍し、つくばのブランド力の向上に寄与することで、私達の暮らす地域の活性化につなげていくことが重要なのです。

つくばの中心部はつくばエクスプレスの開業の恩恵を受け、特につくば駅・研究学園駅周辺は近年目覚ましい開発が進んでいます。その中心部で昔ながらの歴史や文化・芸術、地域資源が一堂に会するまつりつくばは、近年40万人を超える来場者が訪れ、笑顔溢れる魅力ある市内最大の祭へと成長をしております。本年もこの歴史を紡いできた関係諸団体とより一層の連携を図り、さらなるアイデアを取り入れ活気に満ち溢れた魅力的な祭へと進化させ、つくばのプライドとして確立していきたいのです。私達の住み暮らすちは、自然・歴史・文化・知財・研究学園都市機能、多様な資源が存在し、他に類をみない魅力で溢れています。これからも人と資源を有機的に紡ぎ地域の活性化につなげてまいります。

【未来あるつくばの創造に向けて】

私達は例年つくば市きれいなまちづくり実行委員会と連携し、環境美化運動を実施してまいりました。市内においても現在は様々な団体が環境美化活動を行っていますが、JCはこの運動を継続し、次代につながる暮らしやすいまちを形成していくためにも、地域に住む一人ひとりが「ごみを捨てない」という意識向上を図る啓蒙運動にも力を注いでいく必要があると感じています。環境美化運動の効果が、「きれいなまちつくば」から「住みたいまちつくば」へと意識変革を起こせるよう積極的に運動を進め、未来ある美しいまちつくばを描いていかなければなりません。また本年で第11回目を迎えるつくば光の森は、2005年のつくばエクスプレス開業に合わせ、「パリのシャンゼリゼ通りのようなイルミネーションを飾り、つくば駅周辺の賑わいを創出し素敵な冬の街並みを創る」という目的で始まりました。近年は、本事業も環境への配慮に重きを置き、様々な団体と連携を図りながら、地域の皆様に愛される事業へと発展をしております。本年は、今後の「つくば光の森」事業のあるべき姿をしっかりと検証しつつ、つくば駅周辺を訪れる方々に冬の風物詩として、更なる認知度の向上につながるよう努め、冬の観光スポットとなるような事業へと飛躍させて行かなければなりません。

現代に生きる日本人は、近年良くも悪くも経済的発展や情報化時代の影響を受け、各々の価値観が大きく変化してしまっていると感じています。教育環境の変化、都市化、核家族化、外遊びの減少など多くの原因が考えられますが、他人に対してあまりにも無関心で、「自分さえ良ければよい」という利己主義的発想がどうしても現代において否めないのです。是非ともこうしたライフスタイルの変化や意識の変化の中においても、子ども達には知識を詰め込むだけでなく人として「思いあう心」や「規範意識」を育み、自分たちが住

み暮らすつくばの豊かな自然を感じながら、様々な体験をして欲しいのです。そして将来にむけて夢や希望を抱きつつ、様々な出来事に関心を寄せながら自らの人生設計を行い、一日一日の出来事に感謝の念を抱きながら歩みを進めて欲しいのです。

【つくばJ Cが確固たる運動体であるために】

私達は、例年多岐にわたり公益的事業を展開しています。その歩みは少しずつ地域の皆様にも認知されてきていると思います。そんな実りある運動を停滞させることなく、今後も「行動力」をもってしっかりと運動展開を図っていかねばなりません。様々な情報媒体を駆使し、地域の皆様につくばJ Cの活動はもちろん、公益社団法人日本青年会議所の運動を広く伝えていく必要があるのです。そして、本年はJ C活動の発信だけでなく、つくばJ Cからつくばの「美」として、つくばの魅力を広く対外に発信し認知度向上に努めてまいります。また、LOMや出向先で活躍するJAYCEEの雄姿をメンバーが共有し、LOMが一丸となって愛する地域のために行動できる支援体制の構築を図り、JAYCEEを有機的に紡いでまいります。さらに関係諸団体とのつながりを強固なものとし、美しいつくばの創造にむけてともに歩みを進めてまいります。そして第65回JCI ASPAC コタキナバル大会並びに第70回JCI 世界会議 金沢大会ではつくばJ Cブースを出展し、世界中のメンバーにつくばの「美」をPRし、地域貢献の一助となるよう事業を行ってまいります。さらに例年気概と覚悟をもって永年に亘りJ Cにおいて活躍をされてきた卒業生に、私達は敬意を表しつくばJ Cを卒業して頂かなければなりません。卒業生にとって有終の美となるよう事業を開催します。

J C活動において財政の健全な運用は、つくばJ Cの事業発展に必要不可欠です。本年も財務運営幹事会議を継続して行い、費用対効果、公益性の審査、会計の適正運用を含め、しっかりと内容の精査をしてまいります。そして、財務運営幹事会議に出席するJAYCEEが「学びの機会」「成長の機会」としてつながる会議となるよう適正な会議運営を行ってまいります。また国際連合が2015年に目標期限を設定し、UN MDGs（国連ミレニアム開発目標）の一部である国際貢献JCI NOTHING BUT NETSキャンペーンの推進を積極的に取り組み、一人ひとりの力をグローバルな視点で注いでまいります。

私達が確固たる運動体であるために、諸会議の運営は常に的確且つ円滑でなければなりません。機能的で効率的な組織運営を行い、あらゆる場面でLOMの運動が最高のパフォーマンスを発揮できるよう組織の要として取り組んでいくことが重要です。また定款や諸規程の検証も行い、最適な運動展開が図れるよう努めてまいります。私達は、2002年韓国北大田青年会議所と姉妹J Cの締結を行いました。民間外交の一翼を担うことのできる団体として、交流事業にも積極的に取り組み相互理解を深めてまいります。そして、JCI ASPAC誘致を総会決議しているLOMとして、少しでも開催に近づくことができるよう、メンバーとともに議論を交わしつつつくばJ Cの未来像を描いてまいります。

【結びに】

J C I が誕生して本年は 1 0 0 周年を迎えます。私達青年は、時代の変化とともにそれぞれの問題を見出し、時の情勢に見あった事業を展開してまいりました。その度に誰もが経験したことのない難問にぶつかり、その問題解決のためにメンバーで時間を惜しまず議論を交わしてきたのです。成功も失敗も全てを経験できるのが J C であり、この経験を己の財産として活かし、全てを次代のために伝えていくことができるのも、J C という組織だけだと私は確信しています。また昨年筑波学院大学と連携協定を締結しました。O C P (オフキャンパスプログラム) を通して学生と連携を図り、青年会議所事業の一翼を担いながら「奉仕」「修練」「友情」の三信条の基、美しいつくばの創造にむけてともに歩みを進めてまいります。そしてこの経験が、必ずや社会人になった時の糧となるよう期待しています。つくば J C は 3 2 年間と長い歴史を刻み、明るい豊かな社会の創造にむけて、様々な運動を展開してまいりました。この軌跡を飛躍させ、更なるつくばの「美」を追求し続けるためにも、つくばの有する自然・科学・文化・芸術・ひと、様々な資源をメンバー、地域の皆様とともに紡いでいきたいのです。そして地域のあらゆる資源が一体となり、つくばの有する魅力が一本の糸として紡がれたとき、私達の住み暮らすまちは、これまでにない輝きを放つのです。英知と勇気と情熱を胸に秘め、「思いあう心」と「行動力」もって次代につなぐ美しいつくばを構築してまいります。

青年らしく、泥くさく、がむしゃらに 「美しいつくば」の創造へむけて！